

臨床検査項目解説

NHO岩国医療センター

2025/2/21改定

項目（略称）	検査項目名称	説明
TP	総蛋白	血液中の蛋白質の総量を表し、栄養状態や肝臓・腎臓の機能をみています。
ALB	アルブミン	肝臓で作られ全身の栄養状態の指標となる蛋白質で、肝臓の病気や腎臓の機能の低下で低くなります。
T-Bil	総ビリルビン	胆汁色素で、主に肝臓・胆道の障害で高くなり、黄疸の指標になります。
D-Bil	直接ビリルビン	総ビリルビンとともに肝疾患の診断の指標となります。
CHE	コリンエステラーゼ	肝臓の病気でも低くなり、有機リン剤による中毒でも低くなります。脂肪肝では高くなります。
AST(GOT)	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ	肝臓、心臓、筋肉の細胞に多く含まれている酵素で、肝障害や心筋梗塞などで高くなります。
ALT(GPT)	アラニンアミノトランスフェラーゼ	肝臓に多く含まれている酵素で肝臓や胆道の病気でも高くなります。肝臓細胞の障害を敏感に反映します。
ALP	アルカリフォスファターゼ	肝臓・胆道や骨の状態をみています。成長期にある小児は成人よりも高い値を示します。
γ-GT	γ-グルタミルトランスぺプチダーゼ	肝臓や胆道の病気でも異常を示し、アルコール性肝障害でも高くなります。
LD	乳酸脱水素酵素	広く体内各臓器に存在する酵素で、臓器の損傷の程度をみる一次的な検査として重要です。特に肝臓や血液の病気でも高くなります。
AMY	アミラーゼ	膵臓や唾液腺から分泌される消化酵素で、膵臓や唾液腺の病気でも高くなります。
CK	クレアチンキナーゼ	心臓や骨格筋などの損傷の程度を反映します。心筋梗塞などの心臓病や筋肉の病気でも高くなります。
CK-MB	クレアチンキナーゼMBアイソザイム	CKが高値の場合に由来臓器を調べる検査です。脳、骨格筋、心筋由来別にCK-BB、CK-MM、CK-MBに分けられます。
UN	尿素窒素	蛋白質が分解されたもので、腎臓の機能が低下すると高くなります。
CRE	クレアチン	運動のエネルギー源となるアミノ酸が代謝されてできた物質で腎臓から排泄されます。腎臓の機能をみています。
UA	尿酸	細胞をつくる際の成分であるプリン体が分解してできた老廃物で、腎臓から排泄されます。痛風や腎臓の機能障害の指標になります。
Na	ナトリウム	
K	カリウム	体内の水分調節の状態をみます。腎臓の病気やホルモンの異常、脱水などで高くなったり、低くなったりします。
Cl	クロール	
Ca	カルシウム	骨の病気やさまざまな内分泌の病気でも変動します。また、心臓や血管の働きにも重要な役割を果たします。
IP	無機りん	体内では骨に存在しカルシウムと結合しています。内分泌や骨の代謝異常の有無をカルシウムと組みあわせることで病気の診断に役立ちます。
GLU	血糖	血液中のブドウ糖濃度で体のエネルギーとして大切な栄養素です。糖尿病の重要な指標の一つで、食事の影響を受けるので空腹時に検査をします。
HbA1c	ヘモグロビンA1c	過去1～2カ月の平均的な血糖値を反映し、高血糖状態が続くと高くなります。糖尿病での血糖値の管理に有用です。
T-Cho	総コレステロール	体の脂肪成分の一つで、血管を強化する物質として重要です。多すぎると動脈硬化症などの生活習慣病の原因となります。
TG	トリグリセリド（中性脂肪）	体の脂肪成分の一つで、多すぎると動脈硬化の原因となります。食後に高くなります。
HDL-C	HDLコレステロール	善玉コレステロールと呼ばれ、血管に付着したコレステロールを取り除き、動脈硬化を防ぎます。
LDL-C	LDLコレステロール	悪玉コレステロールと呼ばれ、増加するとコレステロールが血管壁に溜まり、動脈硬化が促進します。動脈硬化の直接的な危険因子です。

臨床検査項目解説

NHO岩国医療センター

2025/2/21改定

CRP	C反応性蛋白	体に炎症があると高くなり、回復とともに低くなります。炎症のほか心筋梗塞などでも高くなります。
IgG	免疫グロブリンG	血液中に最も多く含まれる免疫グロブリンで、慢性炎症性疾患で高くなります。
IgA	免疫グロブリンA	IgGに次いで多く存在する免疫グロブリンで、血液と分泌液にあり、喉や鼻などの粘膜感染の免疫に大切な働きをしています。
IgM	免疫グロブリンM	最も大きい免疫グロブリンで、感染症では早期に高くなって体を守る働きをします。
C3	血清補体C3	補体は免疫が働くために大切な成分の一つです。免疫が強くと関与する疾患の診断や経過観察に用いられます。
C4	血清補体C4	

※ この説明は、一般的な内容となっています。また、基準値は測定法により他の医療機関と異なる場合があります。検査に関する詳しい説明は、担当医師にご相談下さい

項目（略称）	検査項目名称	説明
Fer	フェリチン	鉄を貯蔵する蛋白で体の鉄貯蔵量を表し、鉄欠乏性貧血などの指標となります。また、炎症反応や悪性腫瘍などの腫瘍マーカーとしても使われます。
TSH	甲状腺刺激ホルモン	下垂体前葉より分泌され、甲状腺ホルモンの分泌を調節しています。甲状腺機能に反映し甲状腺疾患の診断の検査です。
FT3	遊離トリヨードサイロニン	甲状腺ホルモンの一種でエネルギー代謝の調節や自律神経をコントロールしています。甲状腺機能の亢進、または低下で日常生活に支障を来たすることがあります。病気の程度や治療効果の目安となります。
FT4	遊離サイロキシン	
IRI	インスリン	血糖値を調節するホルモンです。糖尿病の診断に役立ちます。
RPR		梅毒に感染しているかがわかります。
TPLA		
Hb s 抗原	B型肝炎ウイルス表面抗原	現在B型肝炎に感染しているかがわかります。
HB s 抗体	B型肝炎ウイルス表面抗体	過去にB型肝炎に感染したことがあるか、B型肝炎ワクチンを接種した場合に陽性になります。
HCV抗体	C型肝炎ウイルス抗体	現在C型肝炎に感染しているか、または過去に感染したことがあるかがわかります。
HIVスクリーニング	ヒト後天性免疫不全ウイルススクリーニング検査	後天性免疫不全症候群に感染しているかがわかります。陽性の場合、さらに確認のための検査が必要です。

※ この説明は、一般的な内容となっています。また、基準値は測定法により他の医療機関と異なる場合があります。検査に関する詳しい説明は、担当医師にご相談下さい

臨床検査項目解説

NHO岩国医療センター

2025/2/21改定

項目（略称）	検査項目名称	説明
WBC	白血球数	血液の成分の一つで、異物の侵入に対抗して体を守る働きをしています。少ない場合は、体の防御反応が低下して、病気にかかりやすいことを意味しています。白血球数の増減を知ることによって、体の状態を把握したり病気の推定に役立ちます。
RBC	赤血球数	赤血球は体のさまざまな細胞へ酸素を運び、二酸化炭素を受け取って肺まで運び出す働きをしています。
Hb	ヘモグロビン	赤血球に含まれる色素で全身の細胞へ酸素を運ぶ中心的な役割を担っています。主に貧血の程度を示唆します。
Ht	ヘマトクリット	血液に含まれる赤血球の割合を%で表します。これらが低ければ血液が薄いということを示唆しており、貧血が疑われます。
Plt	血小板数	血液の成分の一つで、血管に傷が出来ると直ちにふたをして血を止める働きをしています。血小板の数が減少したり、その機能が低下すると血が止まりにくくなります。
Neutrophil	好中球	白血球には、好中球、リンパ球、単球、好酸球、好塩基球の5種類が含まれていて、顕微鏡で種類ごとに数などを検査します。病気によって増減する白血球の種類が変わるので、種類ごとの増減数を調べることで病気や症状を知る手がかりになります。
Lymphocyte	リンパ球	
Monocyte	単球	
Eosinophil	好塩基球	
Basophil	好酸球	
PT	プロトロンビン時間	血液の凝固異常を調べる検査です。ワーファリン治療時などに薬の量を調節するために測定します。
APTT	部分トロンボプラスチン時間	血液の凝固異常を調べる検査です。血友病など出血性疾患の診断やヘパリン療法の経過観察にも必要な検査です。
Fib	フィブリノーゲン	止血に関与する血液凝固因子の一つで、血液凝固（出血時に自然に血液が固まる）の仕組みに異常を来たす病気などで低くなります。高い場合は炎症の指標となります。
FDP	フィブリン・フィブリノーゲン分解産物	血栓症などの血液凝固の異常をきたす病気で増加します。血栓溶解療法の経過観察に役立ちます。
D-D	Dダイマー	血栓症などの血液凝固の異常をきたす病気で増加します。血栓溶解療法の経過観察に役立ちます。
AT	エーティ	凝固阻害因子です。トロンビンや凝固因子活性を阻害します。
赤沈	赤血球沈降速度	血液中の赤血球が沈んでいく速さをみる検査で、感染症・炎症性疾患で増加します。

※ この説明は、一般的な内容となっています。また、基準値は測定法により他の医療機関と異なる場合があります。検査に関する詳しい説明は、担当医師にご相談下さい。